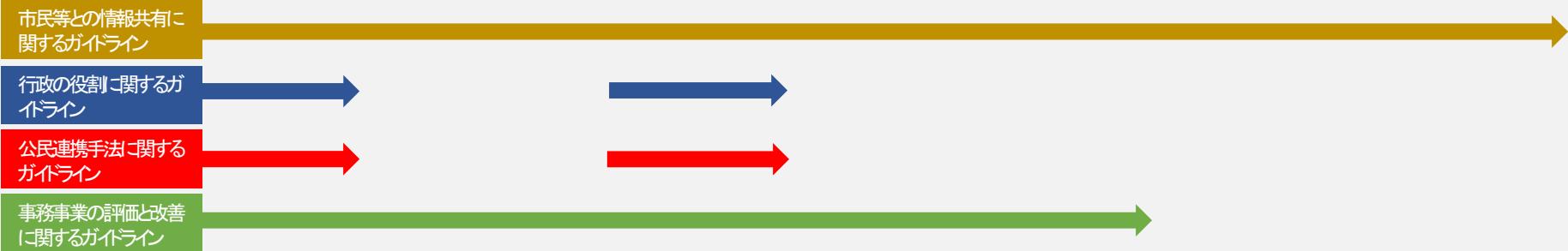


# モデルケース①：施設を見直す場合

**背景:**スポーツ施設が老朽化し維持コストが増加している。利用者は減少傾向にある。公共施設最適化計画では廃止の方向性を示している。一部の市民から存続を望む声がある。

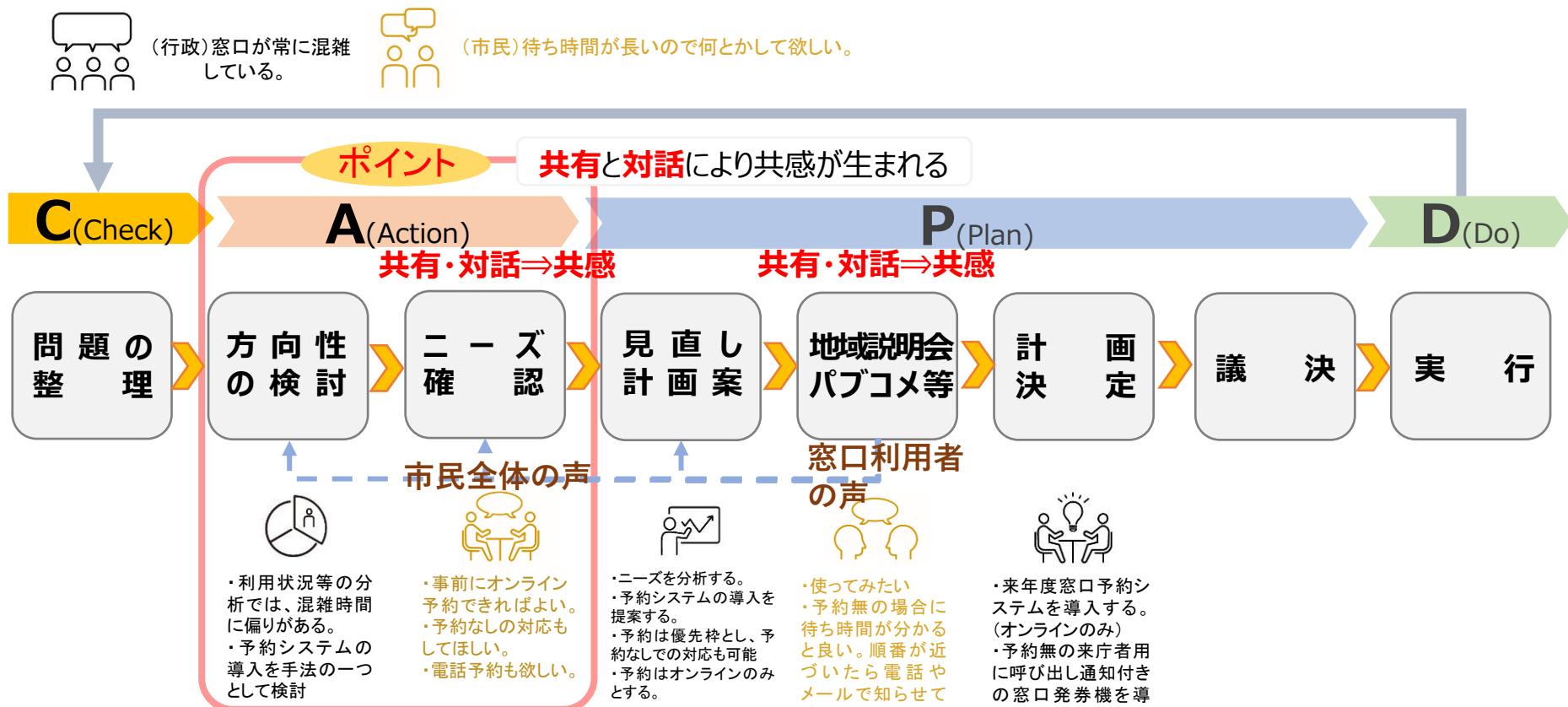


## 参考するガイドライン



## モデルケース②：事業を改善する場合（来庁予約システムを導入する）

背景：窓口が常に混雑している。改善して欲しいという市民の声がある。



### 参考するガイドライン

市民等との情報共有に関するガイドライン

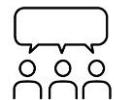
行政の役割に関するガイドライン

公民連携手法に関するガイドライン

事務事業の評価と改善に関するガイドライン

# モデルケース③：新しい事業を企画する場合（若者の居場所づくり支援事業）

背景：若者の流出が多い。高校生の地元愛着度の数字が減少している。  
学校以外で集まれる場所がないという声がある。



(行政)若者の流出対策  
が必要



(市民)学校以外でのコミュニティスペースがない。

ポイント 共有と対話により共感が生まれる

P(Plan)

D(Do)

C(Check)

(Action)

問題の理

方向性の検討

ニーズ認

見直し案

共有・対話⇒共感

共有・対話⇒共感

地域懇親会  
パブコメ等

計画

議決

実行

高校生アンケート

市民の声



- ・原因の分析
- ・流出を改善するため地元愛着度を高めるための事業の立ち上げを検討



- ・放課後に勉強できるスペースが欲しい。
- ・同世代との交流の場所が欲しい。



- ・ニーズを分析する。
- ・新たに若者の居場所を整備する事業を提案



- ・新たに箱モノを整備することには疑問がある。
- ・民間事業者との連携が必要



- ・民間企業が若者の居場所を提供する事業に対する補助金を整備

参考するガイドライン

市民等との情報共有に関するガイドライン

行政の役割に関するガイドライン

公民連携手法に関するガイドライン

事務事業の評価と改善に関するガイドライン

